

第3回みやぎ連携復興センター検討会議事録

日 時：2015年5月18日（月）18:30～20:50

会 場：仙台市市民活動サポートセンター 6F第セミナーホール

出席者：一般社団法人パーソナルサポートセンター 立岡学 様

一般社団法人パーソナルサポートセンター 菅野拓 様

司法書士茂木宏友事務所 茂木宏友 様

特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム 阿久津幸彦 様

東北工業大学 ライフデザイン学科 安全安心生活デザイン学科 福留邦洋 様

一般社団法人みらいサポート石巻 中川政治 様

特定非営利活動法人都市デザインワークス 榊原進 様

公益財団法人地域創造基金さなぶり 鈴木祐司 様

公益財団法人地域創造基金さなぶり 川村文 様

石巻専修大学 経営学部 山崎泰央 様

特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所 野崎隆一 様

丸森町筆甫地区振興連絡協議会 吉澤武志 様

一般社団法人 SAVE IWATE 阿部知幸 様

尚絅学院大学大学院 経営管理部総務課 吉田祐也 様

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター理事：大滝、紅邑、新川、伊東、白木、針生、渡辺

みやぎ連携復興センター 千葉、石塚、中沢、新沼、宮野、高木、堀内、小西、高橋(若)、高橋(智)、佐藤

進 行：中沢

ファシリテーター：石塚

板 書：中沢、宮野

記 録：新沼、堀内

■挨拶

・これまで2回の検討会を実施し、出来るだけ多くの皆様より様々な角度から忌憚の無い意見を頂戴し、今後の連携復興センターをどうすべきか検討してきた。本日は前に進めるためにも、具体的な話をし、全体としての方向性を出していく必要がある。（せんだい・みやぎ代表理事①）

■主旨説明

・これまでの2回は設立に関わった方、中間支援に関わっている方、現場で関わりのある方に検討会にご参加頂いた。さらに、本日に向けて、会に参加出来ない

方々を訪問をしてご意見を伺った。

本日は、法人化に向けた方向性を示させて頂き、質疑応答を行う。（せんだい・みやぎ代表理事②）

■内部検討「合宿」報告

・今後のみやぎ連携復興センターについて事務局員で行った検討について報告。（れんぷく事務局員②）

・配布資料：「みやぎ連携復興センターの今後について 事務局員による検討 経緯報告」を元に説明を実施。

・ビジョン・ミッションを検討するにあたり、SWOT分析により自分達の強みを抽出した。強みは各チー

ムで抽出した後、全員で評価を行った。評価の観点とは、①模倣困難性、②顧客価値創造、③展開性。これにより、あるべき姿と、強みを整理した。(れんぷく事務局員②)

・第1回、2回は事務局全員、3回目はチーフ以上で議論を実施した。(れんぷく事務局員②)

・新しいスタッフに対してセンターの価値を共有出来た事が良かった。強みを可視化でき、共有出来た事が良かった。あくまで内部評価のため、今後は外部の評価も取り入れたい。(れんぷく事務局員③)

・4月に入社した。センターのやるべきことは、漠然とはわかっていたが、ワークを通して再認識出来た。(れんぷく事務局員④)

■事業計画(案)

・配布資料:「みやぎ連携復興センター事業計画書(案)」を元に、2015年度の計画案について説明を実施。(れんぷく事務局員①)

■今後の流れ

・配布資料:「みやぎ連携復興センター法人化へ向けた流れ」を元に、今までの流れと今後の法人化に向けた流れについて説明。(れんぷく事務局員①)

・今後準備委員会を立ち上げ、法人化案を作成し、せんだい・みやぎの理事会に提案する。その後、6月16日の臨時総会の議決を受け、法人化の手続きを行う。事務的な手続きに関しては行政書士、司法書士、社労士と共同で作業を進めている最中である。

■組織/体制図

・配布資料:「みやぎ連携復興センター体制」を元に、体制について説明。(せんだい・みやぎ代表理事②)

・当会議に出席出来ない団体等にヒアリングを実施。どのような連携が出来るか、期待することは何か等についてヒアリングを実施した(資料:みやぎ連携復興センターについてのヒアリング記録)。その結果から体制を検討した。(せんだい・みやぎ代表理事②)

・理事構成メンバーとしては、セーフティネット関係の団体、まちづくり関係の団体、被災地で活動している団体、企業、大学、被災地支援団体(NPOを資金面や活動面で支援している団体)、3県の連復および、神戸・新潟の団体で理事を構成することを考えている。(せんだい・みやぎ代表理事②)

■初めて参加の方による自己紹介

・JPF阿久津様

みやぎ連復が宮城県・東北にいかに必要な存在であるか議論したい。

・さなぶり鈴木様

・神戸まちづくり研究所 野崎様

新しいコミュニティを作成して行くことが今後の課題である。

・丸森町筆甫地区振興連絡協議会 吉沢様

法人化するにあたり、現場の人からも必要な組織になって欲しい。住民にも説明できるような組織になって欲しい。

・SAVE IWATE 阿部様

みやぎ連復にはこうあってほしいという姿があるため、そこをお伝えしたい。

・せんだい・みやぎNPOセンター 伊藤常務理事・事務局長

・パーソナルサポートセンター 菅野様

支援者としても研究者としても3県の連復と付き合いのあるのは唯一と思っている。そういった観点から意見を述べていきたい。

・司法書士茂木宏友事務所 茂木様

青年会議所でみやぎ連復設立当初に関わっていた。組織を理想的にするため、検討を行うことは必要だが、全員の理想を100%盛り込むことは出来ない。一定の時期に結論を出す方向で、検討を行って欲しい。

■質疑・討論

・法人化に向けたプロセスに関してと、理事の候補等

について質問・意見を頂きたい。(れんぷく事務局員②)

・前回までの検討会議の中でみやぎ連復がいろんな仕事を抱えすぎており、現場にはお金が落ちてこないという意見があがった。この件について回答を頂きたい。理事会は何のための理事会か？何を決定する機関なのか。例えば助成金関連の事業は、さなぶりが適任という判断も出来る理事会なのか。リソースや知識のハブを目指しているのか、さらに大きくプラットフォーム化を図るのか。3か年程度の中期計画はあるか？(せんだい・みやぎ理事④)

→復興に特化した取組を行う。すべてを行うことは出来ないため、他の団体でとも協働して活動していく事になる。ミッション、ビジョンに照らして理事会で判断していく。立正佼成会はせんだい・みやぎに対して依頼があり、みやぎ連復が実施したもの。さなぶり、都市デザインワークス様にもご協力を頂いて実施している。(せんだい・みやぎ代表理事②)

→みやぎ連復で出来ないものを協働するのか、窓口としてやるのか。(せんだい・みやぎ理事④)

→3年分の各みやぎ連復の事業内容を整理した。みやぎで少ないのは情報発信・組織基盤強化の運営ノウハウ移転、資金助成。地域の団体へのおみやげが無いため、現場の団体がメリットを感じていない。今後はそこを担っていくのか否か、担っていくならどのようにするのが重要。

→今までは組織基盤が整わずに出来ていなかった。県の事業の再委託は出来ない等の事情があった。一方で、県・国と付き合いってきた中で、評価も頂いて、今後は他の団体と一緒に出来る状況となってきた。(れんぷく事務局員②)

→みやぎでは、他の中間支援団体(せみ・ゆるる・さなぶり)がある為、今までは依頼があれば他の中間支援団体へバトンを渡してきた。(せんだい・みやぎ代表理事②)

→岩手も最初は情報発信が上手く出来ていなかった。自分から取りに行かないと情報が得られなかった。団

体が少ないことも宮城との違いの一つ。

・みやぎ連復の弱い部分を強化するのか、それともできるところに繋いでいくのか。

→自分達は復興を柱として対応していく。自分達の弱み(足りない部分)は他の団体と協働して補強をしていく。(せんだい・みやぎ代表理事②)

・連携しないでやるところはどこか。

→自治体間の横串を通すことをみやぎ連復としてやる。(せんだい・みやぎ代表理事②)

→どの事業も事務局だけで実施ではなく、アドバイザー等にご協力頂いて実施している。情報が発信できない・サービスが提供出来ない等の課題もあるので、今後は協働して進めていく。(れんぷく事務局員②)

・独立して何をやっていくのか、せんだい・みやぎとの関係・さなぶりとの関係について整理する必要性がある。(せんだい・みやぎ理事②)

→復興庁からのルートがみやぎ連復に独占的にある。その情報を現場へ流す事が必要。

→発注された仕事と金額について、県とも交渉して再委託を可能とするように提案をして欲しい。(せんだい・みやぎ理事④)

→誰が受けるのではなく、現場にどのように受け渡していくのかを検討する事が、中間支援組織としての意味がある。国に対して現在の被災地の状況をしっかり伝えて行くことも必要。(せんだい・みやぎ理事②)

・せみ・さなぶり・みやぎ連復の関係性を明確にして欲しい。

→さなぶりとみやぎ連復の具体的な連携は検討していないが、さなぶりの理事長としてのスタンスは、みやぎ連復が資金をプールして被災地に直接配分することは考えてない。お金はさなぶりが預かり、運用をみやぎ連復が実施する等の分担になる。(せんだい・みやぎ代表理事①)

→お金はさなぶりが中心となり、協力してやっていく。

(せんだい・みやぎ代表理事③)

→みやぎ連復は被災地・被災者・被災コミュニティとの連携を行い復興を果たしていく事が役割。せんだい・みやぎは、市民活動組織の力づけを行い、市民社会を育てて行くことを行う。重なる部分もあるが、連携をして実施していく。せんだい・みやぎは施設の管理・人材育成のノウハウもあり、被災地の人材育成にも有用であり、一緒に活動していく。競争する部分も一定程度は出てくるが、ゆるやかな連携を以て進めて行く予定。(せんだい・みやぎ代表理事③)

→当初はせんだい・みやぎは様々なことを行ってきた。さなぶりは資金を集めて宮城県の市民活動団体の支援を行っていく。立正佼成会については、いつまでもみやぎ連復で実施していく事はないと考えており、今後は、さなぶりに渡す等の展開を考えている。

みやぎ連復は被災地に特化して団体の支援をする。団体の基盤強化については、せんだい・みやぎ、ゆるる、地元の中間支援組織へつないでゆく。(せんだい・みやぎ代表理事②)

→復興に関わる案件は、せんだい・みやぎではみやぎ連復にお願いすることをしており、今後も同様である。曖昧な案件については、せんだい・みやぎとしても対応していくが、みやぎ連復にも依頼する等の協働を行っていく。(せんだい・みやぎ代表理事③)

・仙台市市民サポートセンターの運営はP S Cと都市デザインワークスとせんだい・みやぎでやることになっているが、せんだい・みやぎ代表理事②はせんだい・みやぎの代表となっている。せんだい・みやぎ代表理事②はせんだい・みやぎを辞めるのか。

→3社連携は少なくとも来年の6月までは実施する。みやぎ連復はこれまでの経緯からも踏まえてせんだい・みやぎ代表理事②が中心にならないと動かないと考えている。(せんだい・みやぎ代表理事③)

→せんだい・みやぎの運営が第一義だと考えており、別の方がみやぎ連復の代表をやるべきと考えている。

→これまでも両方やって来ている。今まで通りの対応である。(せんだい・みやぎ代表理事③)

→代表はこれから準備委員会で決めていく。(せんだい・みやぎ理事②)

→PSCとしてはせんだい・みやぎ代表理事②にはせんだい・みやぎの代表をしっかりとってほしいと思っている。

・神戸から見ると、せんだい・みやぎの中にみやぎ連復がある事は違和感があり、法人化することは前向きな話である。震災後5年でフェーズが変わるタイミングで、法人化することは大きな意味がある。大きな流れの中で検討をすべきである。復興は長丁場になり、各タイミングで体制を考えて、前に進んだ方が良い。

・資金を管理する額が増える。基金を細かくいろんな団体で持つことは非効率である。新潟は県が作った財団法人が管理している。管理はさなぶりが行い、使い方の示唆をみやぎ連復がアドバイスをするような役割分担が良い。

・復興に関するお金の管理はさなぶりで行うのが良い。みやぎ連復には、お金の抜け・漏れがないように現場から情報を上げて頂くと相乗効果生まれる。

・立正佼成にアドバイザとして関わっている。自分達で出来ることの判断をどうするかが重要。理事の方で検討する必要がある。理事の構成が重要。

・東北は現在重要な局面となっている。3県をみると、異なる点、同じ点がある。地域ニーズにあったお金の出し方をしていかなければならない。行政はニーズにあったお金を出していけないので、そこをみやぎ連復に担ってもらいたい。

・分社の考え方として、事業は引き渡すことが一般的。代表が兼任することもある。いつまでにどういう前提

で引き継ぐのかを検討すべきであり、新規事業をどのようにするのかは別の議論。最低限いつまで何をするのかゴールを決めてやらないといけない。

・ 今後は、準備委員会を立ち上げて法人として必要なもの（定款・キャッシュフロー等）を決定して行く。その後、せんだい・みやぎの理事会・総会にかけていく。今月から来月の頭にかけて決定していく。（れんぷく事務局員①）

・ 検討会は今回で終了。今後は準備委員会を立ち上げて検討を行う。（れんぷく事務局員②）

→準備委員会は誰なのか。

→P S C・宮サポ・都市デザインワークス・検討に来ていただいた方、ヒアリングさせていただいた方、これまで関わりのある企業・大学、さなぶり、J P F、いわて連復、ふくしま連復・神戸や中越の団体に声がけをしたい。（せんだい・みやぎ代表理事②）

→団体の決定については透明性を明らかにして欲しい。

→検討会の方が準備委員になっていくと思う。（せんだい・みやぎ理事②）

→自薦・他薦含めて準備委員会の候補を出して頂きたい。（せんだい・みやぎ代表理事③）

→準備委員会は必要なのか？既存事業もあり、切り離しを行うだけでは準備委員会はいらない。新規事業を行うのであれば必要。

・ 次のアクションはどうか？（せんだい・みやぎ理事④）

→今週中に事務局案を提示し意見集約を行う。（れんぷく事務局員①）

・ 法人化に向けてどこで構成員等決定をしていくか。（せんだい・みやぎ理事②）

→会員・構成員が決定する。今回は準備委員会で決定される。会員は2名いれば良い。定款が確定されれば

法律上は確定。

→せんだい・みやぎは関係ないのか。

→せんだい・みやぎの1事業部門が切り離される為、総会の決議は必要である。

→準備委員会はせんだい・みやぎの理事会でやってもらえれば良い。

→準備委員会で決定した内容をせんだい・みやぎの理事会で決定する。（せんだい・みやぎ理事②）

→せんだい・みやぎの理事会としては、検討を重ねた内容を否決するということはない（せんだい・みやぎ代表理事③）

→原案を今週中につくり、最終的にせんだい・みやぎの理事会に出す。（れんぷく事務局員①）

・ 大学として期待することは、復興から平時に移行するにあたり、中間支援が東北においてどのような役割なのか、大学とみやぎ連復と一緒に東北の新しい市民社会を開いていきたい。

・ 本日の感想は3つ。

① 中間支援組織は2歩・3歩先を見るべき。みやぎ連復は1歩先すら見えていない。先を見られない組織であればみやぎ連復は不要である。

② 事務局で検討した強みとしての顧客価値創造において、内部で情報をもっていることが価値となっていることが理解出来ない。情報が降りてこず、全然足りない。みやぎ連復が障害になっている恐れがあることを認識してほしい。国に対して話をして行こうと思ってもみやぎ連復があることで踏み出せないでいる。

③ 仙台である事の難しさがある。被災地の復興の為に沿岸市町に事務所を置いて欲しい。

・ 法人化する使命を明確化させなければならない。役割分担を明確にしながら、せんだい・みやぎも役割が変わっていかなければならない。役割分担していきたい

- ・人材がないという印象。企業の場合はマーケットが違う為に分けるというのが明確。NPOの場合は、合議をとらないとすすめられない。ビジョン・ミッション・コアコンピタンスも曖昧のため、何年後にどのような姿になっているかを検討にすべき。

- ・現場の事が見えていない。せんだい・みやぎや、さなぶりとの役割分担の議論や、代表の議論ばかり。組織を新しくすることで、何が出来るのかが分からず残念。

- ・役所を見ながら仕事をしていると思われる事が問題。みやぎ連復の機能としてソリューションをどのように現場に与えるのかを検討すべき。みやぎ連復としての数値目標を捉えて行かなければならない。かつ、外に発信する事が必要。どこまで寄り添うのかを明確化する必要がある。（せんだい・みやぎ理事③）

■法人準備委員会開催へ向け （せんだい・みやぎ代表理事③）

- ・準備委員会について事務局から候補を提示し、ご意見を頂き、来週頭に第1回開催を行う予定。

- ・法人化し、従来事業を行っていただくだけではなく、頂いたご意見を踏まえて検討していく。

■閉会の挨拶 （せんだい・みやぎ代表理事①）

- ・みやぎ連復が何をすべきか、現場に意味のある活動が展開できるのかを踏まえて実施していかなければならない。法人化に向けてさらなるご協力を頂きたい。

以上